

すてっぴ

10月号

発行／大野城まどかぴあ 男女平等推進センター

編集／男女平等推進センター情報サポーター

12月22日
(土)

大野城市市制 40 周年記念 あなたとわたしのハートフルステージ
谷川俊太郎と石川セリの世界 ～詩と音楽の贈り物～

<時間> 13:30 開演 (13:00 開場)
<会場> 大ホール (1 階) 全席指定
<料金> 一般 1,500 円 (当日 1,800 円)
ペア券 2,500 円 (前売のみ)

チケット発売日
友の会 10月15日(月)
一般 10月22日(月) (両日とも 10:00~)

チケット取扱い まどかぴあ総合案内



石川セリ



谷川俊太郎

秋の講座のご案内です。参加してみませんか？良い出会いがあるかも・・・。

日 時	講座・イベント	会場・講師・料金
①11月20日(火) ②11月27日(火) ③12月4日(火) 10:00~12:00	子育て中の女性のための 家族や身近な人とのコミュニケーション講座 (全3回) がまんでも攻撃でもなく、自分も相手も大切に した気持ちのつながる自己表現方法(アサーショ ン)について学びます。 ※10/1より受付開始	会 場:大会議室 講 師:日高 美紗子さん (NPO 福岡カウンセリング サポートセンター代表) 受講料:無料
11月24日(土) 19:00~21:00	H24 年度大野城まどかぴあ男女平等推進センター 市民グループ活動支援事業 伝統芸能にふれよう「笑いの源・狂言をあそ ぶ」と「平等ってなんだろう」のしゃべり場 ◆狂言をあそぶワークショップ/80分 ◆講演と質疑応答としゃべり場/40分	会 場:大会議室 参加料:300円 対 象:小学校4年生以上の親子40名 主 催:大野城子ども劇場 申込先:同上(092-572-0544) 共 催:男女平等推進センター
12月1日(土) 第1部 13:30~15:00 第2部 15:15~16:30	厚生労働省委託「女性就労支援全国展開事業」 第1部<講演会> 「女が変わる・男が変わる あたらしい働き方」 第2部「パパ・ママ交流会」 私たちがより良く生きるためのヒント満載の講座 です。「家庭」「夫婦」「地域」「子ども」…全てに おいてバランスが大切。ぜひお出かけください。	会 場:大会議室 講 師:佐藤 千里(第1部) 齊藤 裕樹 (第2部ファシリテーター) 参加料:無料

★講座、イベント等のお申し込み・お問い合わせは⇒男女平等推進センターへ

〒816-0934 大野城市曙町2丁目3番1号

TEL (092) 586-4030

FAX (092) 586-4031

開館日時/月曜日~金曜日 9時~19時

第2・4土曜日 9時~17時

閉館日/第1・3水曜日、第1・3・5土曜日

日曜日・祝日、年末年始



左のマークのある講座・公演は託児
が利用できます。開催日の1週間前
までにお申し込みください。

・1人1回600円

・満1歳~小学校就学前まで

ホームページ <http://www.madokapia.or.jp/>

あなたとわたしのための元気塾（第3回）

日にち：8月4日（土）

「取材の現場から見てきたもの

～デートDVを考える～

講師：平原 奈央子（西日本新聞社文化部記者）

これも愛？たぶん…。

デートDVと一口に言っても、本質的にはその実態はハッキリわからない。今回の講座は、西日本新聞の連載シリーズ「新訳男女」のうち、今年の2月8日から4回にわたり連載された「これも愛？たぶん…脱・デートDV」の取材をとおしてデートDVの実態、被害者・加害者の心理や相談機関の声、警察の現状、行政やNPO法人の支援など、記事や資料を使ってその現況を話された。DV（＝ドメスティック・バイオレンス）とは、「夫婦や恋人など親しい男女の間の暴力や支配」のことをいい、DVの中でも高校生や大学生くらの若者のDVをデートDVという。取材全体をとおして見えてきた事とは…。



足で稼いだ取材逸話を話される平原さん

被害者・加害者の心理や相談機関の声、警察の現状、行政やNPO法人の支援など、記事や資料を使ってその現況を話された。DV（＝ドメスティック・バイオレンス）とは、「夫婦や恋人など親しい男女の間の暴力や

支配」のことをいい、DVの中でも高校生や大学生くらの若者のDVをデートDVという。取材全体をとおして見えてきた事とは…。

①一緒にいるのに寂しさを感じる孤独感の正体

⇒自分の中の疑問や違和感を見逃さない

◆交際相手からの暴力

「暴力」とは、殴る・蹴るといった身体的な暴力以外に、精神的暴力・経済的暴力・性的暴力があり、約10人に1人が経験している。（2011年内閣府調査「男女間における暴力に関する調査」より）

②恋人に支配されて⇒暴力を受けているのに何故別れない、別れられない？

◆違和感は抱いているのに、相手に暴力を受けていて気力を失っていく。判断力が低下し、孤立感が深まり、交際相手への依存性が助長される。

◆痴話げんかなどから深刻な事件へと発展していく（ストーカーなど）。別れたくても許さない、プライドを傷つけられたと感じ、エスカレートしていく。



③デートDVに遭ってしまったら、行政やDVホットライン、警察、弁護士事務所などに相談

⇒とにかく話し、状況を見極め、自分の身を守ろう

◆恋人から受けた傷は深く、不眠など心身に変調をきたし、異性への恐怖感、学業や仕事の中断、転居など etc…。また、性行為の強要による妊娠・中絶などの問題もあり。

◆現行法の問題点⇒事実婚や内縁関係は2001年10月に施行されたDV防止法が適用されるが、デートDVはDV防止法の適用外。「ストーカー法」に基づく警告は可能だが、拘束力はナシ。

◆相談の現場から⇒「かあーっ」として暴力を振るうがやさしい面があって、被害者は正常な判断力が喪失していて「逃げたいけれどあの人には私が必要」と思い込む場合もある。

④「気付き」を大切に⇒教育と社会通念

◆事後対策には限界がある。予防するためには教育現場へのアクセスが必要だ。福岡市のある私立高校で、デートDVを学ぶ授業が開かれた。これは、福岡県が進めるDV防止啓発事業の一環で今年は3年目だ。対象者は3年生80人。

「役割劇」でデートDVの様々な状況を普段の言葉使いで演じる。こうした授業は2003年に熊本県で試行され、九州各県の学校現場へ広まっている。性教育や生徒指導にも組み込まれ、同校では人権教育として実施している。

◆暴力は「連鎖」する??児童虐待やDVがある家庭で育つと暴力で問題解決しようとする傾向があると言われるが、いわゆる「暴力の連鎖」は救いの手が届かなかった証拠でもあるという専門家も。

現代の若者を取り巻くメディアには、ゆがんだ恋愛観の描写が少なくない。若者に人気のケータイ小説には、暴力や望まない妊娠が描かれ、つらい恋が読者の共感を呼ぶ…。消費社会の歪んだ目線でみていくと人権侵害にならないかと思う。

DV（デートDVも含めて）はエスカレートするに従って、犯罪につながる過程でもある。現在の社会構造にも問題があり、デートDVの実態を追い、脱する方法を考える取り組みが必要だ。

（情報サポーター 昴）

第15回男女平等推進センターフェスティバル 響きあう 共生のハーモニー

日にち：8月18日（土）

男女平等推進センターフェスティバルは、男女共同参画社会の推進と男女平等推進センターの開館記念を目的として毎年開かれている行事で、今年は15回目になります。メイン事業はまどかびあ大ホール、バザーはギャラリーモールにて開催されました。企画・運営は一般公募による実行委員会の皆さんによって行われました。

実行委員さんの汗と涙の宝物
第1回からの歴代フェスティバルポスターも展示されました。



<第1部 トークショー>

主催者の実行委員会および来賓の大野城市長よりの開会挨拶に始まり、第一部はトークショーです。テーマは「ささえあおう 子育てと自分育て」で、出演は広岡守穂さん(中央大学法学部教授)と広岡立美さん(元石川県議会議員)のご夫妻、進行は林田スマ館長で進められました。出演者は法学部の先生と元県議会議員と聞いて、どんな堅苦しい話が出て来るんだろうと構えていると、あにはからんや、とても身近でわかりやすい話でした。

素敵なお二人のお話しに、
会場中、うなずきのウェーブ。



お二人の学生結婚の話から、団塊世代の人達が共有するじじ・ばば夫婦の孫との接し方などが話題にのぼり、思いあたることや大いに共感することがありました。優れた頭脳の持ち主の先生方も、孫と接する仕方は自分と同じなんだと、ある意味ホッとしました。ご出演のお二人、私から言わせていただければユニークで愉快的な、いくつになってもお互いを尊重し、認めあって

いるご夫婦とお見受けしました。さて話の要点ですが、物事はまず気づくことが大切であり、結婚生活や子育てや孫育てにおいての「気づき」は人生の宝物になるはずだということでした。

最後にお二人からのメッセージとして、奥様の立美さんからは「相手に言葉で伝える」。夫の守穂さんからは「自分の父親と向かいあっている息子はいないのではないかとだからこそ自分は、息子と向かいあうように心掛けたい」と話をむすばれました。

<第2部 コンサート>

団塊世代にピッタリのダ・カーポ、いつの間にか娘さんが加わって三人になっていました。緞帳が上がって最初の曲は「青春のままに」でしたが、昭和50年代のデビュー当時と変わらない軽やかな旋律と歌声で、会場があこの頃にタイムスリップ。トークや朗読、フルートとギター演奏を交えてのコンサートは、つごう12曲でアンコールはアメイジング・グレイスでした。



最後には、実行委員の皆さんも全員舞台にあがり、ダ・カーポと一緒に「故郷」を合唱して共生のハーモニーがホール中に響きわたりました。

尚、参加のみなさんよりいただいたアンケート集計の感想を読んでも「飾り気なく、ユーモアにあふれるお話に感銘を受けました。何事にも前向きで素晴らしい」や「さすがの歌声と演奏に酷暑を忘れました。久しぶりに気持ちがゆっくりしました」という声などが寄せられていました。

(情報サポーター 倉町賢一郎)



素晴らしい歌声をありがとう!

◆◆◆ 男女平等推進センターの愛称を募集します！ ◆◆◆

平成 25 年 4 月にリニューアルオープンを予定している男女平等推進センターでは、もっと多くの方に愛され、利用していただくために、愛称を募集します。募集詳細は、10 月中旬より設置予定のチラシ、ホームページをご覧ください。

<応募資格> 市内外問わずどなたでも <応募期間> 11/1(木)~12/27(木)

<応募方法> 下記の必要事項を所定の応募用紙またはハガキに記入のうえ、持参または、郵送にてご応募ください。

- ①愛称(読み方を添えて) ②愛称の趣旨 ③〒番号 ④住所
⑤氏名(ふりがな) ⑥年齢 ⑦電話番号

<選考結果> ホームページに掲載し、採用者に通知します。(1 月中旬頃)

応募
してね!



<応募・問合せ先>

大野城まどかぴあ
男女平等推進センター
〒816-0934 大野城市曙町 2-3-1
電話 092 (586) 4030
FAX 092 (586) 4031

10月の男女平等推進センター

日	曜	予 定
1	月	福祉住環境 2 級③
2	火	スキルアップ 簿記 2 級 カラーコーデ イネター 3 級①
3	水	休館日
4	木	スキルアップ 簿記 2 級 福祉住環境 2 級④
5	金	親子のためのブックタイム①
6	土	センター閉館日あなたとわたしの元気塾⑤
7	日	センター閉館日
8	月	センター閉館日
9	火	啓発サポーター定例会 スキルアップ 簿記 2 級 カラーコーデ イネター 3 級②
10	水	
11	木	スキルアップ 簿記 2 級 福祉住環境 2 級⑤
12	金	
13	土	市民活動支援事業 スキルアップ 簿記 2 級
14	日	センター閉館日
15	月	福祉住環境 2 級⑥ 事業サポーター定例会 ハートフルステージ チケットの会先行発売開始
16	火	スキルアップ 簿記 2 級 カラーコーデ イネター 3 級③ 託児サポーター定例会
17	水	休館日
18	木	大野城市男女共生講座 スキルアップ 簿記 2 級 福祉住環境 2 級⑦
19	金	親子のためのブックタイム② 情報サポーター編集会議
20	土	センター閉館日
21	日	センター閉館日
22	月	福祉住環境 2 級⑧ ハートフルステージ チケット一般発売開始
23	火	スキルアップ 簿記 2 級 カラーコーデ イネター 3 級④
24	水	
25	木	スキルアップ 簿記 2 級 福祉住環境 2 級⑨
26	金	
27	土	スキルアップ 簿記 2 級
28	日	センター閉館日
29	月	福祉住環境 2 級⑩
30	火	スキルアップ 簿記 2 級 カラーコーデ イネター 3 級⑤
31	水	



相談のご予約・お問合せは・・・
☎092-586-4035へ

☆大野城まどかぴあ 相談室のご案内☆

相談は無料です。まずはお電話してください。

■総合相談・・・月曜～金曜 9時～17時

※土・日・祝日と休館日はお休みです。

面接相談(要予約)と電話相談ができます。

■臨床心理士による相談・・・火曜・木曜 月4回

面接、電話相談。予約してください。

生き方、夫婦・親子関係、対人関係、仕事のこと、DVの相談など、気持ちの整理をしませんか。

<今月の相談日程>

10月4日・11日・18日(木)、16日(火)

■法律相談・・・第1～4木曜日

13時～16時 面接相談のみ。予約してください。
弁護士が相談を受けます。

■おしごと相談・・・10月10日(水)10時～12時

面接相談のみ。予約してください。

福岡県福岡労働者支援事務所の労働相談員、
就業アドバイザーが相談を受けます。

ひとりごと 食いしん坊大いに悩む。

食べると太る、食べるか我慢か。暑い夏も終わり、実りの秋は味覚の秋に。柿に栗と食欲のまま楽しんでいると、やれメタボだ、コレステロールや糖尿病などと嫌な言葉が次々と頭を過る。動物は、食物を見つけたら出来るかぎり食べないと、次はいつ食物にありつけるか分からない。ヒトにも未だにこの本能が残っているのか、美味しい物があるとつい手が出てしまう。

脳の視床下部には、摂食中枢と満腹中枢がある。血液中の糖分が減り体内の脂肪が脂肪酸となって血液中に増えると、摂食中枢は「腹減った、なにか美味しい物はないかな」となり、食事をし血液中の糖分が増えると、満腹中枢は「ああ、美味しかった」となる。酒は飲めるうちが花とか、美味しい物も食べられなくなったらお終いだと思っていると、あつと言う間に
ぶくぶく、ぽっこり。この時季、なお一層の食欲に対する覚悟が必要では。

(情報サポーター 原田 久)

